

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：商工費 項：商工費 目：工鉱業振興費

事業名 **中部圏スタートアップ・エコシステムコンソーシアム負担金**

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

商工労働部産業イノベーション推進課 電話番号：058-272-1111(内3750)
スタートアップ推進係 E-mail：c11352@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,000 千円 (前年度予算額： 1,000 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000
要求額	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000
決定額	1,000	0	0	0	0	0	0	0	1,000

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨 (現状と課題)

国は令和元年6月に「世界に伍するスタートアップ・エコシステム拠点形成戦略」を策定し、エコシステムの中核となる拠点都市を選定し、スタートアップを継続的に生み出すスタートアップ・エコシステムの拠点形成を目指している。

中部圏においては、セントラルジャパン スタートアップエコシステム(※) コンソーシアムがグローバル拠点都市として選定されている。

県も同コンソーシアムに参加し、スタートアップに関する気運の向上や、中部圏との支援の連携強化を図るための経費を要求するもの。

(※) <参考>

一般にはスタートアップに関するコミュニティを形成し、スタートアップに関係する組織・人が相互に関連しながら活動することで、スタートアップが自然に増加し成長するという状況を自然の循環に例えて、スタートアップ・エコシステムとされています

(2) 事業内容

広域でスタートアップ支援にかかる共同イベントの開催や情報発信、J-Startup CENTRAL 運営を行うため、セントラルジャパン スタートアップ・エコシステム コンソーシアムの運営に必要な経費を負担する。

- ・共同イベント等の開催
- ・ウェブサイトの運営
- ・情報発信
- ・J-Startup CENTRALの運営 等

(3) 県負担・補助率の考え方

広域でスタートアップ支援を行うものであり、コンソーシアムの運営に必要な経費の一部を負担することで、県内スタートアップの育成にも繋がるものである。

(4) 類似事業の有無

なし

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
負担金	1,000	
合計	1,000	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

<岐阜県経済・雇用再生戦略>

「スタートアップを生み育てる環境整備を支援」と記載

(2) 事業主体及びその妥当性

セントラルジャパン スタートアップ・エコシステム コンソーシアムは、国から第2期スタートアップ・エコシステム拠点都市のグローバル拠点都市として選定され、スタートアップに係るエコシステム形成には広域での活動が必要となることから、同コンソーシアムに負担金を拠出することは妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか
 起業家や企業、大学、政府、金融機関、地方自治体などが相互に連携し、イノベーションやスタートアップを継続的に生み出す環境を作る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R9)	達成率
コンソーシアム 事業への岐阜県 関係者の参加件 数	—	—	5	5	5	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和5年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和6年度	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %
令和7年度	令和8年度当初予算にて追加
	指標① 目標：5 実績：5（推定値） 達成率：100（推定値） %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・ 事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない	
(評価) 3	セントラルジャパンコンソーシアムが内閣府から第2期拠点都市に選定され、中部圏だけでなく他地域とのさらに連携強化をはかる。
・ 事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	東京都が主催するSushi Techのセントラルジャパンコンソーシアムのブースに本県のスタートアップが出演した。
・ 事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている	
(評価) 2	他自治体(愛知県や名古屋市等)と役割分担し、効率的な支援に取り組んでいる。

(今後の課題)

・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 他自治体と連携を強化することで、県内スタートアップへの支援へとつなげる。
--

(次年度の方向性)

・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 中部圏との支援の連携強化することで、スタートアップのさらなる成長につながり、新産業や新サービスなど新たな地域経済の担い手を創出することで県経済の振興できるため、継続して事業に取り組む。
